

まえがき

| | |
|----------|---|
| 著者 | 久野 昭 |
| 雑誌名 | 世界の中の日本 III : 文化研究という視点 日本研究の総合化について |
| 巻 | 3 |
| 発行年 | 1991-03-01 |
| その他のタイトル | Maegaki |
| URL | http://doi.org/10.15055/00003295 |

本書は、国際日本文化研究センターが一九九〇年三月五日から十日にかけて、京都で開催した国際シンポジウムの報告書である。第一部・公開講演は都ホテル、第二部・国際シンポジウムは京都エミナースを会場として行われた。

日本文化研究の国際化のために設立された本研究センターは、国際的な日本文化研究の現状への関心と、この地球上のさまざまな地域および多様な専門領域における日本文化研究の総合化の可能性への模索と、そして日本文化がグローバルな文化の連関の中で持つ意味の追求という立場から、三年間にわたって「世界の中の日本」を総合テーマとして、日本文化研究の方法と解釈にかかわる問題の検討と整理とを企ててきた。その年度別のテーマは、左記のとおりであった。

一九八八年 「日本研究のパラダイム——日本学と日本研究——」

一九八九年 「対象と方法——各専門から見た日本研究の問題点——」

一九九〇年 「文化研究という視点——日本研究の総合化について——」

本書の内容は、当然、第一年度・第二年度の研究集会の成果を承けて開かれた第三年度の公開講演と、シンポジウムにおける報告、コメント、および討議の記録ということになる。

たしかに、「世界の中の日本」を総合テーマとする国際シンポジウムは、この第三年度を以て終了したが、無論、我々はこれで問題が片付いたとは毛頭考えていない。むしろ、この三回にわたるシンポジウムによって浮かび上がり、解決を待っている多くの問題があることを、我々は心得ている。更にまた、この総合テーマは、国際日本文化研究センターが今後も抱え続けねばならない基本的なテーマであり、我々は、この課題を抱えながら、次回からは本センターにおける共同研究のいずれかを核とする形で、毎年、国際シンポジウムを開催していく予定である。

いま本書を公にするにあたり、この三年間にわたる国際シンポジウムへの国内外の参加者各位はもとより、企画、実施、そして報告書の作成等々、さまざまな分野で協力を惜しまれなかった各位への感謝の念を表明しておきたい。